

第2章 21世紀の神奈川の展望

～活力ある神奈川、心豊かなふるさと～

21世紀の神奈川を「活力ある神奈川、心豊かなふるさと」とするためには、県民一人ひとりが多様な価値観のもとに、健康で生きがいのある生活をおくることが必要です。また、その生活を支える地域経済を活力に満ちたものとするのが求められています。そのため、次の3つの基本目標のもとに、成熟した市民社会の形成をめざします。

1 三つの基本目標

(1) 明るい長寿・福祉社会の構築

「人生80年時代」が定着する中で、誰もが健康で長寿を心から喜べる社会づくりを進めます。

特に、これからの少子・高齢社会においては、すべての人が福祉サービスの利用者となると同時に福祉の担い手になることから、共に生きる仲間として健康で生き生きとくらせる地域社会の形成が望まれています。

そのためには、行政によるサービスはもとより、民間サービスや県民の自主的な活動などが一体になって、県民の健康の維持、増進から疾病の予防、医療、福祉にいたる過程において、きめ細かく総合的に取り組むことが必要です。その際、利用する県民が、社会に支えられながら、自己の責任においてサービスを選択し、住みなれた地域で、自立してくらしていけることが求められています。

また、高齢者や障害者が、その知識と経験を生かすことで新たな社会活力が生まれると考えられています。

こうした考え方に立って、すべての人の人権が尊重され、社会参加できる、健やかな明るい長寿・福祉社会の構築をめざします。

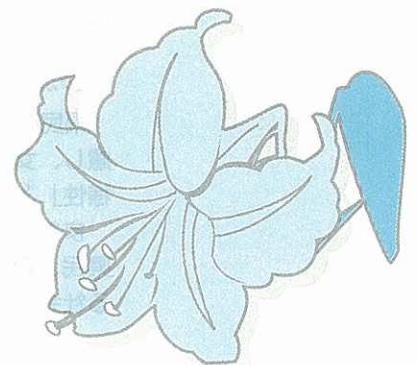
(2) 個性豊かな文化的社会の創造

21世紀の成熟した社会に向けて、一人ひとりが豊かさを実感でき、生きがいをもってくらすことができる文化的な社会づくりを進めます。

そのためには、経済のグローバル化や高度情報化の進展、県民の志向の多様化の中で、国際化時代にふさわしいくみや、県民のそれぞれのライフスタイルに応える多様な選択肢が社会の中に備えられていることが必要です。

また、異なる価値観や文化の違いなど、社会の多様性や人権の尊重に配慮し、歴史や風土に培われた文化・芸術と環境を大切にする新しい価値観にそった地域文化の形成が求められています。

こうした考え方に立って、未来を担う子どもの個性や創造性が大切にされるゆとりある教育、平和で開かれた地域社会づくりを進めるとともに、身近な場所で生涯にわたってスポーツを楽しみ、地域文化に親しめる個性豊かな文化的社会の創造をめざします。



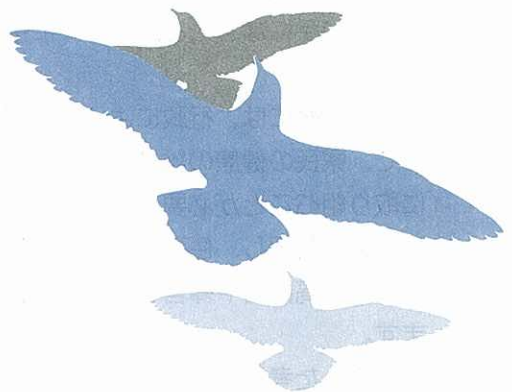
(3) 活力ある新たな地域経済の実現

明るい長寿・福祉社会を構築し、個性豊かな文化的社会とするために、その基盤をなす地域経済の活性化を進めます。

今後、21世紀に向かって、世界的な地域間競争の中で、産業の空洞化問題など、神奈川の地域経済を取り巻く環境は、ますます厳しくなることが想定されています。また、これまでの経済成長を支えてきた産業構造や雇用システムの変化も予想されます。

こうした中で、神奈川の地域経済の新たな展開を図るためには、世界各地との産業ネットワークの形成とともに、これまで神奈川が蓄積してきたものづくりをはじめとする産業技術や技能、人材、都市の魅力を活用し、地域社会と結びついた活力ある地域経済を創出することが必要です。さらに、創造性のある多様な起業活動を促進し、付加価値の高い内需型の産業構造に転換していくことが求められています。同時に、雇用の流動化に対応した人材の育成や雇用機会の確保が必要とされています。

また、都市近郊に位置する地理的特性を生かした神奈川の農林水産業の新たな展開が必要です。こうした考え方に立って、活力ある新たな地域経済の実現をめざします。



▼こうした3つの目標を実現するために、
新たな県土づくりと社会システムの形成が必要です。

○新たな県土形成の方向

人口や経済の成熟化の進展などを背景に、これまでの成長型の*都市化社会から都市内部の質的充実をめざす**都市型社会へと変わっていきます。

この様な変化に伴って、それぞれの地域が、その特性を生かした交流や連携によって、都市の機能を補い、地域の魅力を高めるようになります。こうした考え方に立って、より個性豊かな県土づくりに取り組みます。

また、グローバル化が進展し、国際的なネットワークが高密度化する中で、神奈川の役割にふさわしい都市の形成を進めます。

○参加型の社会づくり

県民の多様なライフスタイルと個性的な暮らしを実現するために、一人ひとりの人権に配慮し、女性、障害者、外国籍県民の社会参画など、県民の主体的な社会参加に基づく、「多様性」と「選択」による柔軟な社会システムの形成が必要です。

また、県民の生活が広域化し、様々に変化する中で、県民のニーズに応えるために、県と県民、市町村のパートナーシップによる連携と地方分権の具体化により、県民が主体となる社会づくりに取り組みます。

*都市化社会…工業化社会の到来に伴い、生産の重視をもとに、人口の都市集中が進み、都市が肥大化していく社会

**都市型社会…知識集約化への産業構造の転換に伴い、豊かな生活の重視をもとに、地域からのまちづくりにより、都市の魅力を増していく社会